

# 1300年の歴史を刻む 新治郡衙跡と 廃寺跡を訪ねて



新治郡衙跡（古郡）で市文化課の職員から説明を受ける筑西市観光大使の柳田憲枝さんと飯塚まゆさん。奈良時代にはこの場所を中心に51棟もの建物群があったと聞き驚きの様子でした。

## 新治郡衙跡

ぐんが



**国指定から50周年  
地元の力で守り続ける**

今年、新治郡衙跡が、昭和43年に国指定史跡となつて50年を迎えます。また、顕彰碑「新治郡家之趾」が昭和4年に建てられ遺跡が守り続けられてから、実に90年を迎えようとしており、新治廃寺も初めて調査の手が入った昭和14年から80年という節目を迎

えます。

筑西市の文化財保護に関しては、かつて、水戸光圀による侍塚古墳（栃木県大田原市）が調査され、地元の人たちによって今も保護され続けていることを手本としたように、新治郡衙跡、新治廃寺跡の調査と保護が出土資料の保存とともに地元の人たちの手によって行われていることは誇りといえるでしょう。

私たちの住む筑西市には、多くの歴史や文化財が残されています。文化財は、郷土の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な市民の財産です。今月号では、協和地区の国指定史跡「新治郡衙跡」と「新治廃寺跡」を筑西市観光大使の柳田憲枝さん、飯塚まゆさんと巡りました。

**新治郡十二郷図** 茨城県はかつて常陸国と呼ばれ、国府（現在の県庁）は、現在の石岡市に置かれていました。常陸国はさらに、新治郡や真壁郡、筑波郡など11郡に別れ、それぞれの郡の中心的な役所機能のある場所は郡衙や郡家と呼ばれていました。（出典：新編常陸国誌）



東塔跡の心礎 塔の心柱を支える礎石が新治廃寺跡に残されています。





# 新治 廃寺跡

はいじ

国道 50 号沿いの高台に残る新治廃寺跡。いくつもの建物があったことがわかっており、今でも当時の瓦や建物の柱を支えた礎石が残されています。



藤田清さん 古郡(村)の旧家に生まれ、多くの歴史家と交流する中で、郷土の歴史解明を第一とした茨城県の文化財保護・考古学研究の先駆けとして活躍。(写真は、昭和30年11月、自宅の庭先で、河間小の4年生に文化財の説明をする藤田さん)



はるか 1300 年もの昔、先人たちが、この地から集めたお米を遠く奈良の都まで運んで行ったと思うと、とても感動的な気持ちになりました。

問 文化課 ☎22-0183

新治郡の中心地としてにぎわいを見せた古郡  
古郡地区は、今から約 1300 年も昔の奈良時代に常陸国新治郡の中心地として栄えていました。この新治(郡)は、常陸国の入口として「古事記」や「日本書紀」に書かれたヤマトタケルノミコトの歌にも詠まれてい

ます。また、同じ奈良時代に編纂された「常陸国風土記」にも最初に新治郡が紹介され、郡の位置や地名の由来が書かれています。郡の中心地には役所や大寺が街道沿いに置かれました。  
この地域は、江戸時代ごろから、瓦を出土する地として注目されていましたが、大正 10 年、全国の重要遺跡を調査に来た調査官が古郡を訪れ、遺跡を案内した藤田清さんが

その重要性を強く感じたことが始まりとなりました。その後、藤田さんは昭和 4 年に郡衙跡を長く顕彰するため「新治郡家之趾」碑を現地に建てました。

## 文献資料が実証された 近代考古学の先駆け

昭和 10 年、藤田さんは、『社会経済史学』誌上に「常陸の不動倉」を寄稿し、古郡が『類聚国史』(892 年・菅原道真編纂)の中で「弘仁 8 年新治郡災焼不動倉十三棟穀九千九百九十石」と記載された地であることを発表しました。この記事を読んだ高井悌三郎先生(茨城女子師範学校)は水戸から通いつめ、ついに藤田さんらの協力のもとに昭和 14 年から廃寺跡を、昭和 16 年からは郡衙跡の調査を実施

しました。調査は、農閑期に学校の休みの日を利用した学生や地元住民の協力を得て行われました。

奈良時代の役所(郡衙)の主な仕事は税を集め国に届けることです。税はお米のことで、役所としてはお米を納める倉庫が必要です。古郡からは、調査によって多くの倉庫跡が確認されました。また、焼けた米(炭化米)の出土により「不動倉十三棟」の場所も確認されました。戦前の調査ですが、51 棟にも及ぶ建物跡の配置が明らかにされ、文献資料を実証した先駆的遺跡として全国に知られることになりました。

## 東塔と西塔を並べ持つ 大寺の存在が明らかに

郡衙(役所)に隣り合わせ

て建てられた大寺は、まさに郡の寺としての機能を持っていました。調査では、金堂の東西両側に塔を並べもつ日本では初めての伽藍配置が明らかになりました。屋根に葺かれた多くの瓦とともに金堂跡や講堂跡には建物の太い柱を据えた礎石が配され、東塔跡には塔の心柱(中心柱)を据えた心礎が残されています。



大寺のイメージ図 発掘調査の結果、金堂・東塔・西塔・講堂と思われる建物跡が確認され、その周辺部には中門や回廊などを巡らせた大きな寺があったことが明らかになっています。